



## 酸性雨は森を殺し、森を生む

酸性雨で消え行く森と運命をともにするガラス質のロッジの提案

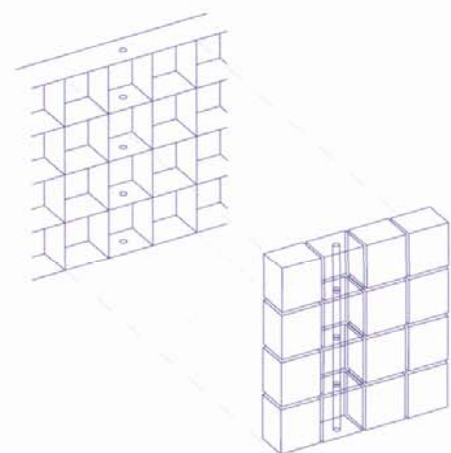
森にガラスブロックを纏った木と同じくらいの20mほどの高さのシリンダーを立てる  
シリンダーは上層に行くほどに床の面積が小さくなり、室内に雨水がたまる仕組みを持っている  
ガラスブロックは音を遮り風景をわずかに歪め、内部と外部の距離を遠ざける  
距離は利用者に観察者であることを強調する

敷地の森林は酸性雨に触まれ、いずれ消え行く運命にある  
はじめは青々と茂っていた森も次第に葉や枝が枯れ落ちてゆく  
その頃にはシリンダー内部にたまった雨水によって観察者は居場所を上層へと追いやられているだろう  
そしてついに森が枯れてしまった頃には、シリンダー内部には観察者の居場所はなく

シリンダーは、ロッジとしては、森とともに死んで単なるオブジェと化す  
ガラスブロックは水の質感を強調する

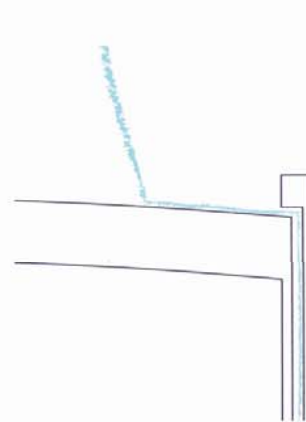
森であった場所には酸性雨の塊、オブジェとしてのシリンダーが林立することとなる  
それはまるでかつてそこに森があったことを暗示するように

・構造ダイアグラム



鉄骨のグリッド状のフレームにガラスブロックを嵌め込むことで構造とする  
一部、フレームとガラスブロックに上下に貫通した穴を通して雨水を内部の各層に運ぶ

・雨水貯蓄ダイアグラム



屋根スラブのパラペットから雨水を取り込む  
取り込んだ雨水を内部へと通す穴は各層に開いていて  
下層から上層へと雨水がたまっていくことになる

1 / 500 plan

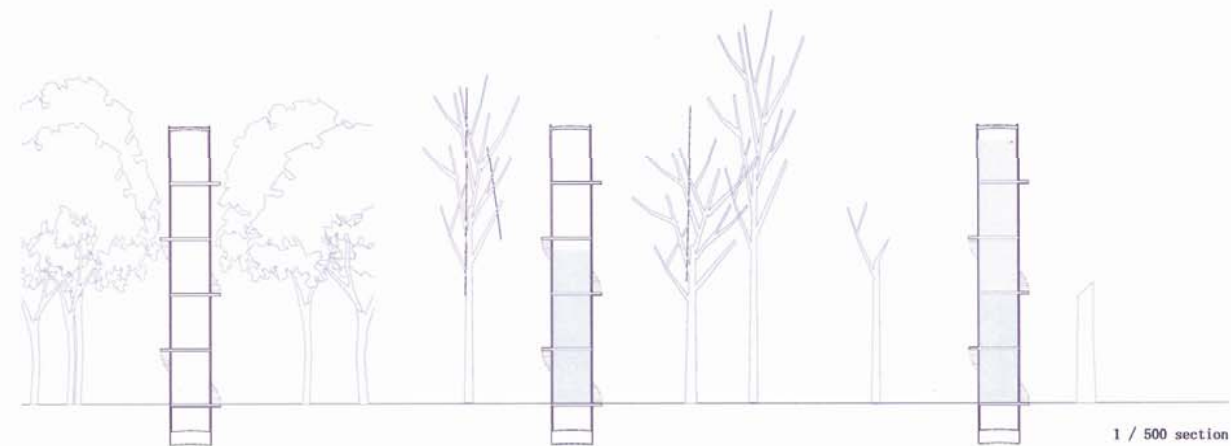


床面積



シリンダー内部の床面積は下層が広く  
上層に行くに従い小さくなってゆく

下層から雨水が貯まっていくと  
利用できる床面積が加速的に減少することとなり  
森とともにロッジとして利用できなくなる



1 / 500 section